

会 議 録

会 議 名	令和 7 年度第 1 回東松山市スポーツ推進審議会					
開 催 日 時	令和 7 年 8 月 2 1 日（木）			開 会	午後 2 時 0 0 分	
				閉 会	午後 3 時 3 0 分	
開 催 場 所	東松山市総合会館 1 階 多目的室					
会 議 次 第	1 開会 2 委嘱状交付 3 あいさつ 4 議事 第 3 期東松山市スポーツ推進計画（令和 6 年度）の進捗について 5 その他 6 閉会					
公開・非公開の別	公開		傍 聴 者 数		0 人	
非公開の理由 （非公開の場合）						
委員出欠状況	会 長	森 浩 寿	出席	委 員	奥 野 清	出席
	委 員	河 野 喜 男	出席	委 員	長 澤 誠	出席
	委 員	木 阪 尚	出席	委 員	西 川 光 治	出席
	委 員	田 中 透	出席	委 員	山 崎 秋 良	欠席
	委 員	鈴 木 正 弘	出席	委 員	梅 澤 行 子	出席
	委 員	七五三 和孝	出席	委 員	戸 森 健 治	出席
事 務 局	教 育 長 吉 澤 勲			生涯学習部長 田嶋 靖洋		
	生涯学習部次長 田島 信子			スポーツ課ウォーキング推進室長 大塚 貴夫		
	スポーツ課主査 柴崎 友花			スポーツ課主任 高橋 沙織		
	スポーツ課主事補 坂井 悠真					

次 第	顛 末
1 開 会	－開会宣言－
2 委嘱状交付	－委嘱状交付（西川委員、戸森委員）
3 あ い さ つ	－吉澤教育長挨拶 －各委員・事務局自己紹介 －委員出席状況の報告 －配布資料確認 －森会長に進行が代わり、議事の進行。 －議事録署名人に七五三委員、奥野委員を指名。 －会議の公開及び傍聴人の有無について確認。
4 議 事	●「第3期東松山市スポーツ推進計画（令和6年度）の進捗について」 －事務局より資料説明 （森会長） 資料1 推進項目1の表について、施策番号が網掛けになっている意味は何か。 （事務局） こどもを対象とした事業を表している。 （森会長） 毎年継続して行う事業と一回限り実施の事業を分かる範囲で教えていただきたい。 （事務局） No.38の「東松山誕生祭 スポーツ体験会」は東松山文化まちづくり公社が昨年度に東松山市市制施行70周年を記念して行った事業のため、今年度以降は開催しない事業である。 （鈴木委員） 推進項目2の表の「毎日1万歩運動＋」について、高齢者が毎日1万歩を歩くのは難しい。せめて1日3,000歩～4,000歩程度に設定し、「いきいきポイント」を獲得できるような制度にすれば、高齢者が気軽に参加してくれるのではないかな。

	(事務局) 昨年度の会議でのご指摘を受け、今年度から事業名称を「目指せ 健康長寿～ウォーキングのまちの健康づくり～」に変更し、内容の見直しを行った。1万歩にこだわらず、ウォーキングをしてもらうこととした。 申込は令和7年8月22日（金）までとなっており、現時点の申込者数は35名である。 (森会長) 参加人数は昨年度とあまり変わっていないのか。 (事務局) 前期測定のみで現在35名の参加である。途中で辞退する場合も想定されるが、全員が後期測定に参加すれば、合計約70人の参加となる。 (森会長) 具体的にどのように内容を変更したのか。 (事務局) 体力測定の種目を一部変更したが、最も大きな変更点は、1万歩という歩数にこだわる必要をなくしたという点である。 (鈴木委員) 参加者は皆、体力測定をしてもらうために事業に参加するのか。 (事務局) この事業は前期（9月）と後期（12月）を行い、3か月ウォーキングを行った結果どのような効果が記録として出るのかを検証するものである。 ターゲットは普段運動をしていない方で、この事業への参加をきっかけに運動をしてもらうことを目的にしている。 (河野委員) 事業参加期間中の1日の運動量はどのくらいなのか。毎日運動しなければならないのか。 (事務局) 毎日運動をしなくてもいいわけではない。無理のない範囲でできる時に動いていただく。期間中のノルマ等はない。 (奥野委員) 「プラス1000歩運動」との違いは。 (事務局) 当該事業は年間を通して申込可能。イベントとして実施するものではない。
--	--

	く、日常的に少し歩数を増やすことを意識しようというもの。「毎日1万歩運動」とは別の事業である。 (森会長) 昨年は16人の参加であったが、参加者増加のため対策等あるのか。 (事務局) 人によって歩幅や歩行速度が異なり、1,000歩の基準が変わってくる。今後、名称を変更し、1,000歩にこだわらない事業にする。 (森会長) 厚生労働省が以前行っていたプラス10運動がベースになっていると考察する。 高齢者だけでなく、外に出る機会が少ないこどもたちも事業のターゲットにするべき。全国的にそういったこどもたちをどのようにして外に出すかが大きな課題である。 各事業の参加者数はコロナ前を超える数値となっているのか。 (事務局) 体育施設の利用者数を含め、コロナ前を上回る数値には達していない。 (森会長) 参加者数が一桁の事業もある状況だが、参加者増加のために工夫の余地はあるのか。 (事務局) 土日の開催は学校行事と日程が重複する可能性があるため、スケジュールを確認しながら、日程を調整していく。 (長澤委員) 各地区で行われている市民体育祭はこの指標には入らないのか。市民からしたら当該事業もスポーツに親しむ機会なのではないか。 また、東松山市陸上競技協会の主催事業や市民総合体育大会など資料1に計上すべき事業がたくさんあると考える。 集計方法について目標数値の推移があると分かりやすい。また前年比の表があると実績を確認しやすい。 (事務局) ぜひ参考にさせていただく。推移等の表については次回以降準備する。
--	--

	(森会長) 推進項目2について、スポーツ推進の重点施策となっている「ウォーキングセンターの充実」の進捗はどうか。 (事務局) 資料1の表には、重点施策の項目に直結する情報は載っていない。 館内では年間を通して、各季節の動植物に関する展示を行っている。 今後は入館者数等の数値を表に記載していく。 (西川委員) 2025年度目標値に現時点で達しているものについては、その都度目標値の上方修正を行うのか。 (事務局) 次期計画の更新時に精査して目標値を設定する予定である。 (森会長) 奥野委員に、昨年度のウォーキング事業の総括をいただきたい。 (奥野委員) 参加者の高齢化が著しい。若い年代の参加者を取り込みたいが、ウォーキングは市民スポーツであり、スポンサーが付きにくいものである。 ウォーキングは多様化してきており、何かをしながらできるスポーツであるので、対象者に応じた様々な形のウォーキングを行っていくべきである。 ウォーキングセンターは環境省の助成を受けて建てられた施設である。 環境学習のための施設として活用できるよう、職員の人材育成が必要である。 (森会長) ウォーキングが盛んな東松山市だからこその面白い取組がほしい。 新しい切り口で施策を検討するべき。 (河野委員) こどもの体力を伸ばすためには、小学生の間はスポーツを楽しみ、中学生で持久力をつけ、高校生で筋力をつけると良いとされる。 またウォーキング・ヨガは高齢者のフレイル・サルコペニア予防にもされている。 (森会長) 推進項目3について、「スポーツ指導者研修会」の参加者数が少ないが、
--	---

	どのような内容なのか。 (事務局) 講義と実技で構成されており、講義では「理想的なスポーツコーチング」というテーマで講演を実施した。 実技は例年、心肺蘇生法や AED の活用などの救命講習について研修を行っている。 (森会長) 参加者が伸び悩んでいるが、その要因は。 (事務局) 指導者数の減少が主な原因と思われる。 またこの講習は指導者資格の更新時に受講する人がほとんどであり、新規での受講者が少ないことが原因だと思われる。 (森会長) 指導者を担うことに対する大人の関心について、スポーツ協会や少年団はどう考えているのか。 (田中委員) 指導者の高齢化が影響していると考ええる。 またスポーツ指導者講習会の参加者が少ない理由として、一度受講した研修を繰り返し、受講する人がいない状況。 また講義内容のテーマ選びに苦戦していることも挙げられるだろう。 (七五三委員) 認定指導員資格の要件が非常に厳しいことと当該資格登録料の値上がりが影響していると考ええる。 認定指導員が 2 名いなければ、団運営ができないという要件があるが、費用面からも必要最低限の資格保有人数で済ませる団が多い。 また、費用面から競技協会での従事と少年団指導者の兼任が難しく、スポーツ少年団から抜けてしまう人もいる。 (森会長) 部活動指導の受け皿としてスポーツ少年団関係者を挙げる声が多いが、その制度を作っている担当者の議論の中で費用面を問題視できていない状況である。 部活動自体が習い事的一种になってしまう恐れがある。 月謝を支払うことができる人しか参加できなくなってしまう。
--	--

	(長澤委員) 今年から中学校 1 校を除き、その他の市内小・中学校が水泳授業を民間に委託しており、保護者や生徒からとても好評である。 こういった環境整備もスポーツを楽しむ環境づくりに計上してよいのではないか。 (森会長) 具体的にどのような点が好評なのか。 (長澤委員) 環境面が整っているほか、専門的な指導を受けられる点である。 一方、各学年で実施回数が決まってしまうため、欠席や見学が続いてしまうと満足に授業を受けられないデメリットもある。 (森委員) スポーツ庁のスポーツ事故防止協議会に委員として参加しているが、事故防止ビデオの題材が水泳であった。 海や川の事故が毎週末報道されている状況なので、そのよう事故防止に繋げていきたい。 以前、水害で被害に遭った正代運動広場の現状は。 (事務局) 現時点で利用できる状況ではない。 (森会長) 承知した。 ほかになれば議論を終了としたい。
5 その他	－事務局より次回の開催時期の案内。令和 8 年 2 月の予定。
6 閉 会	－田嶋部長より閉会の言葉

上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

令和 7 年 9 月 1 7 日

署名委員 七五三 和孝

署名委員 奥野 清